

## 平成28年度日本血液事業学会事業報告

### ◎会員数 平成29年3月31日現在

A 会員	6,956 名
B 会員	49 名
合 計	7,005 名

### ◎学会機関誌「血液事業」の発行

第39巻第1号	2016年 5月	7,240 部
第39巻第2号	2016年 8月	7,540 部 (抄録集)
第39巻第3号	2016年11月	7,240 部
第39巻第4号	2017年 2月	7,240 部
合 計		29,260 部

### ◎第40回日本血液事業学会総会

#### 第40回日本血液事業学会総会概要

総会事務局 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター

第40回日本血液事業学会総会(総会長:日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター高松 純樹所長)は、平成28年10月4日(火)から6日(木)までの3日間に亘り、愛知県名古屋市のウイंकあいち(愛知県産業労働センター)を会場として開催しました。

本総会では「血液事業の新たな地平～創造と転換～」をテーマに掲げ、輸血用血液製剤の変わりゆく需要動向への適切な対応と次世代へ向けた先進技術の導入による新たな事業展開の創造に向けて、血液事業の関係者と共に将来を見据えた議論を深めていくことができるように企画しました。

また、「献血ポスターコンペティション」(日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター主催)の一環として、若年層が同世代に対する献血PRを目的に作成したポスター 548作品を会場内に展示し、最優秀賞をはじめとした優秀作品を決める投票審査にも多くの方々が参加され、今後の献血基盤の中心となる若年層献血者確保に向けた取り組み強化の意識を高める機会となりました。

その他のプログラムの概要は次のとおりです。

特別講演は3題、特別講演1「飛躍するジェットビジネスの今」演者:島内 克幸(三菱重工航空エンジン株式会社)、特別講演2「新医療体制の展開」演者:河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)、特別講演3「献血思想普及・推進と血液事業の調和」演者:一瀬 篤(厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課)を開催しました。

特別教育講演は3題、特別教育講演1「E型肝炎」演者:三代 俊治(東芝病院研究部)、特別教育講演2「採血時の神経損傷の病態と対策・治療」演者:平田 仁(名古屋大学予防早期治療創成センター)、特別教育講演3「輸血細胞治療の新たな展開と血液事業」演者:室井 一男(自治医科大学輸血・細胞移植部)を開催しました。

教育講演は5題、教育講演1「血液検体を用いた研究課題とその成果」演者:永井 正(日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター)、教育講演2「伊勢志摩サミットとおもてなし」演者:

村上 亘(伊勢志摩サミット三重県民会議)、教育講演3「自己血輸血に伴う自己血血管スケールの考案」演者:山本 香世(中国電力株式会社中電病院看護科)、教育講演4「交通事故防止に向けてのKM理論の実践」演者:松永 勝也(一般社団法人安全運転推進協会/九州大学)、教育講演5「供血・輸血をめぐる医療訴訟」演者:田邊 昇(中村・平井・田邊法律事務所)を開催しました。

シンポジウムは6題、シンポジウム1「救急医療を支える血液事業とは」、シンポジウム2「血液センターにおける看護師の役割」、シンポジウム3「MRの果たすべき役割」、シンポジウム4「血液事業運営体制の再構築」、シンポジウム5「さい帯血移植を含む造血幹細胞移植の現状及び今後の課題」、シンポジウム6「広域的事業の更なる発展のために～供給体制の再構築～」を開催しました。

ワークショップは4題、ワークショップ1「輸血用血液製剤の安全性とサービスの在り方」、ワークショップ2「採血をめぐる諸課題」、ワークショップ3「血液事業における品質照査～どこまでやる?なにができる?なにが必要?～」、ワークショップ4「献血推進とボランティア活動」を開催しました。

特別企画1「地域からの挑戦」では、第1部「献血推進における現状と今後の課題」、第2部「災害にどう対応したか」を開催しました。特別企画2「ブロック血液センター所長推薦優秀演題」では、日本赤十字社各ブロック血液センター所長から推薦のあった合計7題が発表されました。また、推薦優秀演題の7名の演者は総会長及び日本赤十字社血液センター連盟会長から表彰されました。

共催セミナーは10題を開催しました。ランチョンセミナーとして、共催セミナー1「個別NAT導入効果一輸血用血液の安全性の向上の検証一」/「HLA適合血小板の現状と課題」、共催セミナー2「がん患者の就労の現状、支援について」、共催セミナー3「C型肝炎の疫学:最前線」/「B型肝炎診療の最前線」、共催セミナー4「血小板減少症と輸血療法」、共催セミナー7「医療小説の現実と矛盾」、共催セミナー8「HIV感染症の検査と治療の現状」、共催セミナー9「分割血小板の効率的な採血への取り組み」、共催セミナー10「ウイルス感染症検査の新たな展開～ddPCR法の可能性～」の8題を設けました。イブニングセミナーとして、共催セミナー5「糖代謝異常検出マーカーとしてのグリコアルブミン(GA)～母子を糖尿病から守る予防キャンペーンを含めて～」、共催セミナー6「NGSによるHLA Typing」の2題を設けました。

演題は294題(口演117題、ポスター177題)が発表され、各会場で熱心な討論が展開されました。また、企業展示は35社が出展されました。

期間中、総会には1,242名(事前登録1,115名、当日受付127名)、第2日目に名古屋観光ホテルにおいて開催した会員交見会には729名と、全国から多数の方々が参加されました。

また、関連行事といたしまして、開会前日に学会編集委員会、学会役員会、学会評議員会を、第2日目に血液センター連盟役員会を開催しました。